

令和 4 年度
横浜市立高等学校
及び
併設型中学校
学校関係者評価書

対象校：横浜市立金沢高等学校

調査全体の日程

調査日： 令和4年12月9日 ～ 令和5年3月20日

調査対象校：横浜市立金沢高等学校

調査チーム：

リーダー 大関 泰裕（横浜市立大学教授）

大木 敏弘（金沢高等学校 後援会会長）

東 由華（金沢高等学校 PTA 会長）

村上 博史（横浜市立金沢中学校 校長）

福島富士子（NPO 法人 らしく並木 代表）

記録等担当者：平野 良朗（横浜市立金沢高等学校 事務職）

1 第3期横浜市教育振興基本計画の推進状況

□魅力ある高校教育の推進状況について

- ・ 色々な活動が世の中の目に触れていくと、金沢高校の評価が上がり、生徒の自信にもつながってくる。何か仕掛けを考えるとよいのでは。
- ・ 高校入試は横浜市北部や川崎市からも志願者がいる。令和4年度入試は1.33倍の志願状況であった。選択の理由は立地？横須賀方面からも近い。ぜんぶやるところの魅力、「文武融合」というワードを使うと世の中の先取りというイメージがつくのではないか。
- ・ P1-24 地域との連携協力については、継続して欲しい。また連携の様子などを地域に知らせる工夫もお願いしたい。例えば、社共の広報誌等にも掲載してもらい、地域住民に理解してもらうことで、金沢高校のパフォーマンスを高め、生徒の自身にもつながる。
- ・ ボランティア活動などは、優れた生徒や豊かな心を創る生徒につながってくる。それが、進路実現と融合している。広報で宣伝して外からも見えるようになると、魅力的な学校としてのイメージを創ることができるのではないか。後援会もLineなどで広報できるのではないか。

2 教育活動の状況

(1) 生徒の状況について

□P.4 生徒による授業評価

- ・ 学習意欲は学年が上がるにつれて上がってくる。能動的な姿勢が表れているのが素晴らしい。様々な活動がここに集約されている。

□進路指導の状況について

- ・ 学習に向かう学年全体の雰囲気大切にしたい。将来やりたいことをすべての高校生が見つめるのは難しい。「ここまでやっておけば」という到達点を示すことを高校での指導には是非加えて欲しい。そこまでできている生徒を大学へ送ることで、生徒の大学での活躍が期待できる。
- ・ 卒業生との懇談会も継続して卒業生とのつながりを大切にしたい。

3 学校経営の状況

(1) 学校の管理運営などの状況について

□組織運営及び教職員研修の状況

- ・ 学校評価の結果については、教職員間で是非意見交換をおこない、学校が目指すものを共有してほしい。

(2) 危機管理の状況について

□防災対策の状況

- ・ 生徒の避難経路への理解は今の新型コロナウイルス感染症が蔓延する状況下を考えれば、56%は適当な数字であると考えられる。今後の数値の改善が期待できる。避難訓練を4月におこなう、防災の長である学校長が全員を連れて非難するようなパフォーマンスをおこなうことも、職員や生徒全体の意識を高めることにつながっていくはずである。

(3) 将来に向けての状況について

□将来への構想の状況

- ・好きなことを追求していく延長線上に、自らの将来を発見できることもある。高校で将来やりたいことを見つけるのは難しいこともあるので、将来像を見つけさせる指導ばかりではなく、バランスよく学際的なワードを上手く使った指導で生徒を育成して欲しい。